

令和7年度第1回幕別町創生総合戦略審議会議事録

1 開催日時

令和7年5月27日（火）18：30～20：15

2 開催場所

幕別町役場3階 会議室3－A B

3 出席委員（19名）

笹井会長、山下委員、勝井委員、堀川委員、原田委員、佐々木委員、山本委員、宮田委員、高道委員、浦島委員、久保委員、青木委員、川口委員、土井委員、藤井委員、森田委員、堀委員、齊藤委員、金野委員

※ 大和田委員は欠席

4 審議

(1) 令和6年度幕別町の人口動態について

(2) 第3期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和7年度事業について

5 事務局出席者

企画総務部長 山端 広和

〃 政策推進課長 宇野 和哉

〃 〃 副主幹 中田 周呼

〃 主査 鷺見 駿樹

〃 主査 柴谷 隆次

6 傍聴者

2人

7 議事録

（企画総務部長）

お忙しい中、また夜分にも関わらず、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまより令和7年度第1回幕別町創生総合戦略審議会を開催いたします。

まず、4月1日付けで事務職員の異動がありましたので、異動になった職員を紹介させていただきます。（事務局職員紹介）

開催にあたりまして、笹井会長からご挨拶を申し上げます。

（笹井会長）

本日お集りいただきまして、ありがとうございます。昨年3、4回にかけて検討いただいた第3期幕別町総合戦略について今年の2月に町長に答申をいたしました。

最近では、いろいろなニュースがあり、今日の議題も関係ありますが、札幌市では人口が200万人を割ったりだとか隣の帯広市でも人口減少が起きているという話も出ています。幕別町でもなかなか思ったようにいかないところですが、皆様にご審議をいただきながらより良い方向に向いていってほしいと思っておりますので、よろしくご審議の程お願いしたいと思います。

（企画総務部長）

笹井会長ありがとうございました。

本日の委員の出欠状況について、ご報告いたします。

資料の幕別町創生総合戦略審議会委員名簿をご覧ください。委員名簿の20番 大和田委員から欠席の報告を受けておりますので、出席が19名になっております。

それでは、ここからの議事進行は笹井会長にお願いいたします。

（笹井会長）

それでは議事に入ります。まず、議案第1号 令和6年度幕別町の人口動態について、事務局の方からお願いします。

（政策推進課副主幹）

事務局から説明させていただきます。まず、配布資料の確認をさせていただきます。次第と資料1、資料2、参考資料として審議委員名簿をお配りしております。資料が無い方いらっしゃいますか。

それでは、令和6年度幕別町の人口動態につきましてご説明いたします。資料1 令和6年度幕別町の人口動態の概要をご覧ください。まず、1の直近10年間の年度末人口ですが、平成26年度から令和6年度まで過去10年間の3月末時点での住民基本台帳における人口動態をまと

めたものになります。

表の左から順に、幕別地区、札内地区、忠類地区ごとの人口と総計、人口のうち外国人の人数、前年と比較した人口総計の増減数、出生数と死亡数による自然増減、転入者数と転出者数による社会増減、自然増減と社会増減の要因で構成される人口増減、総人口に占める65歳以上の人口割合を示す高齢化率、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した合計特殊出生率となっております。

表の下から3行目の令和6年度の欄をご覧ください。

地区ごとの人口は、幕別地区が5,049人、札内地区が18,722人、忠類地区が1,308人、総計25,079人となっており、そのうち外国人が243人になります。人口は、前年度から339人減少となり、10年前と比較すると2,517人減少しております。

続いて、自然増減の欄をご覧ください。出生数ですが、年々減少傾向にある中、113人と過去10年間で最少となっています。また、死亡数は390人となっており、出生数と差し引いた自然増減は277人の減となっています。

続いて、社会増減の欄をご覧ください。転入者数ですが931人と昨年と比較すると80人増加しました。後程、2ページの年齢別転入・転出者数の比較の欄と3ページの参考資料の社会動態の欄をご覧いただきたいのですが、転入者の増加数が最も大きかった年齢層は25～29歳の年齢層で36人の増加、次いで15～19歳の年齢層で24人、45～49歳の年齢層で21人の増加となっています。資料ではデータを掲載しておりませんが、どの年齢層も帯広市からの転入者数が最も多い中、特徴的な傾向としましては、25～29歳の年齢層では国外からの転入者数が多く、子育て世帯の転入者とともに、町内での外国人労働者の増加が転入者数を押し上げている状況となっております。

一方、転出者数は995人となっており昨年よりも増加していますが、主な要因としましては、25～44歳の子育て世代の年齢層のうち、40～44歳を除く年齢層で転出者数が増加しており、子育て世代では転入者が超過しているものの、その増加率は伸びていない状況です。

続いて、高齢化率は、35.1%と年々増加傾向にあり、10年前と比較すると6.5%増加しております。

続いて、合計特殊出生率ですが、令和6年度の合計特殊出生率は、1.10となっており、過去最低の出生率となっております。

次に、下段の2の高齢化率をご覧ください。

幕別町全体を5つの地区に分け、地区ごとに高齢化率を算出しております。真ん中の高齢化率の欄をご覧ください。札内市街地、忠類農村地域を除いた地域では、高齢化率が40%を超える状況となっており、町全体の高齢化率は35.1%となっております。特に、幕別市街地は47.3%と高くなっております。

2 ページをご覧ください、3 の自然動態をご覧ください。先程ご説明しましたが、令和6年度は277人の減となっておりますが、5つの地区全てにおいて、出生数を死亡数が大きく上回っており、忠類農村地域では出生数がゼロとなっています。

次に4の社会動態をご覧ください。まず、「(1) 転入元・転出先の比較」の表をご覧ください。転入数では自治体別では帯広市からの転入が286人と1番多く、2番目が札幌市の81人、3番目が音更町の57人となっております。一方、転出数では、転入数と同様に帯広市への転出が269人で1番多く、2番目が札幌市の167人、3番目が音更町の57人となっております。

十勝管内単位でみると、転入数が533人、転出数が450人と83人の転入超過となっておりますが、十勝管外単位では、転入数が398人、転出数が545人と147の転出超過となっており、相対的に転出者数が転入者数を上回っています。

最後に、「(2) 年齢別転入・転出者数の比較」の表をご覧ください。

ポイントとしましては、15歳から19歳の年齢層では69人の減、20歳から24歳年齢層では73人の減と転出者が転入者を大幅に上回っておりますが、こちらは、進学や就職に伴い、町外へ転出する方が多いものと推察しております。

また、先程10年間の年度末人口の中で説明しましたとおり、25歳から44歳までの子育て世帯を中心に転入者が増えた一方で転出者数も増えていることから、町としましては、子育て世帯層の転出者数の抑制に向けて、引き続き、「子育て支援策」と「定住対策」を重要な2本柱として、各種施策を推進してまいります。

3 ページは、直近3年間の自然増減と社会増減の表を掲載しておりますので、後程ご参考ください。

説明については以上となります。

(笹井会長)

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありました令和6年度幕別町人口動態の概要につきまして、皆様の方から何かご質問、ご意見ございましたらお願いします。

(川口委員)

今、人口動態ということで、人口が減少していつているということをお聞かせいただきましたが、今後、こういったところに課題を持って、いろいろ取り組まれていくというように考えているのかもう少しご説明いただければと思います。

(政策推進課副主幹)

先程の説明の中でも触れましたが、年齢別の転入者数の比較の欄で、やはり若い方々、15歳から24歳の方々の転出者数の増加というのは年々増加している傾向にございます。

一方で、町の中では大学だとか学べる機会が少ない状況にありますし、就職についても都市

部にどうしても転出する方も多いものですから、町といたしましてもなるべくいろいろな仕事
が、機会があるというようなことも、高校生を中心にいろいろと説明をしながら、引き続き町
に残っていただくような施策というのが必要なのかなと考えております。

または転出した方が、今後幕別町に戻ってきていただくというような施策も非常に重要な
かと思っておりますので、学校を卒業してからはこちらに戻ってきてから就職の場ですとか、
雇用の場というのがあるということを発信していくことも必要と思っておりますので、そうい
ったところも含めてPRっていうのが必要だと思います。

また一方で、子育て世代の方々の転入者数も、一市三町で比較しましても、高校生も対象に
した医療費の無償化ですとか、施策でも、優位性というのはあるのかなと思っておりますので、
子育て世代を中心に、町に来ていただくようなPRをしていきたいと考えております。

（笹井会長）

よろしいでしょうか。他に質問等ある方はいますか。

（原田委員）

外国人の転入転出者について、人数的には転入者が97人、転出者が74人ということで、外国
人の方というのは、仕事ということで来てる方が多いのかと。私も仕事柄、外国人の方と接す
ることが多く、具体的に言うとグループホームだとか介護従事者の方がすごく多いんですが、
そのような施設を誘致すればもっと増えていく可能性はあるのかどうか。これは民間も含めて
のことですので、町としてはどうにもできないのかなと思いますが、これから外国人の方が増
える見通しなのか、外国人の方を定着、定住させる方向で、町としてはどのように旗振りを行
っていくのかお聞かせください。

（政策推進課副主幹）

まず、町内の外国人の方がどこから一番来ているかといいますと、ベトナムからの転入が一
番多い状況となっております。大半の方が技能実習ということで来られてますので、何年かし
たら国外に出て行ってしまうというような方も多いんですが、ただ、近年町内の民間企業の方
がいろいろリクルート活動されてまして、外国人の方が多く来てるというような状況にござい
ます。

町としましては、法人へのサポート、日本語や町内会のルールですとか、そういったところ
への対応については充分にしていきたいなと思っておりますし、事業者のリクルート活動等に
対して、できるサポートはしていきたいなと考えております。

（原田委員）

町内会長をやっているとして、区内のアパートには外国人の方がいるんですが、その方々は町

内会に加入していないという状況もあって、町の方で周知している行事だとか、イベントだとか、町内会を通して回覧等でのアナウンスができていません。

外国人の方への想定だとか、幕別の魅力を発信するみたいなものを町からも少し力を貸していただきたいと思っています。

（政策推進課長）

幕別町に來られた外国人の方への広報でいうと、町ホームページを今年リニューアルしまして、各外国語に対応するやさしい日本語というような機能もつけて、外国の方も分かりやすいようにホームページもリニューアルさせていただきました。

私の所属する町内会にも、外国人の方が複数で1つの家に住んでるっていう方がいて、その方たちも町内会には入ってないですが、積極的に町内会の行事に呼んだりして、一応交流を持ったりだとか、イベントの周知もさせていただいてますので、町内会の中でもそういった活動ができるようなことを町の方からも周知していければいいかなと思っています。

外国人の方が増えているという現状も把握しておりますので、そういったサポートもしていくように、尽力していきたいと考えています。

（笹井会長）

よろしいでしょうか。他に質問等ある方はいますか。

（堀委員）

すごく基本的な質問で申し訳ないのですが、今までもずっと使用していた言葉だったんですけど、合計特殊出生率という言葉はどうしてこういう名前になってるのかを教えていただければと思います。

（政策推進課副主幹）

単純な出生率ではなくて、15歳から49歳までの年齢別に出生率を算出しまして、合計して出したものですから、合計特殊出生率という言い方をしています。特殊出生率自体も国や道で算出してるデータとなっておりますので、町独自というようなことではなくて、全国的に算出方法が統一されたものだとご理解いただければと思います。

（笹井会長）

よろしいでしょうか。他に質問等ある方はいますか。後程、全体を通してお伺いしたいと思いますが、次に進めさせていただきます。

続きまして、第三期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略につきまして、4つの基本目標ありますので、1つずつ区切っていきたいと思いますので、まず基本目標1の方から願います。

(政策推進課副主幹)

資料2「第3期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和7年度事業」をご覧ください。

こちらは、町の総合戦略で掲げる4つの基本目標を推進するに当たり令和7年度に町が取り組む具体的な施策や事業を基本目標ごとに掲載したものです。

本日は、今年度新たに実施する事業と昨年度から実施内容などを拡充した事業の中から重点事業として位置付けている事業を中心に、基本目標ごとに説明させていただきます。

1ページをご覧ください。

基本目標1「産業の振興と雇用の場をつくる」につきまして、具体的な施策を掲載しております。点線枠の左上に施策名、その下に施策内容と主な実施事業を整理しています。

左上の「農業の生産性の向上と経営の安定化」に関する事業としましては、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業補助金の助成対象に、近年出沒数が急増しているヒグマの捕獲に対する経費を追加しております。

また、ふるさと土づくり支援事業補助金では、持続可能な農業を推進するべく、適正な堆肥の施用を支援することを目的として、堆肥の購入に必要となる土壌診断に係る経費に対して補助を行うこととしております。

続きまして、右上の「既存事業者及び進出企業に対する支援」の取組としましては、新規事業として林業緑化推進事業を実施します。こちらは、林業労働者の減少や高齢化など厳しい状況を鑑み、林業・木材産業を活性化するとともに、苗木の安定的な供給の取組を支援することを目的として、民有林向けに出荷した苗木に対して補助をするものです。

また、商工会振興補助金を拡充しておりますが、こちらは、老朽化した高圧受電施設の更新と忠類支所内のエアコン設置に対する経費へ補助を行うこととしております。

続きまして、右下の「農業・自営業の後継者及び新規就業者の確保・育成」の取組としましては、地域おこし協力隊としての活動内容を事前に体験いただき、着任後のイメージや幕別町への移住について検討いただくことを目的として、協力隊インターンを実施します。なお、現在、町の魅力発信や商店街・市街地活性化などに関する活動に対するインターンを募集しているところです。

(笹井会長)

何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(堀川委員)

新たな説明はなかったですが、6次産業化と地産地消の推進の中で、もしかしたら聞き逃したかもしれませんが、食品ロスの削減を推進するというふうに記載されていて、前々から取り組んでいたの、減ってきたのかなと思っています。KPI等がないので、町としてどのよう

に取り組んできたかを確認できればと思います。

また、特産品研究開発に関しては、我々もイベントや物産展に参加する際にいろいろ持っていきたいとなった際に売れるものがあるのかという問題があります。町内の事業者でもたくさん開発していただいたものはあるのですが、その特産品を町内の方が知らないことが多いのではないかなと思います。町内の方が良き宣伝マンになるように、知ってもらうような機会創出を図った方が良いのではと考えます。たしか補助金は300万円が限度額だったかと記憶していますが、この金額の拡充、あるいはやり方の融通等を検討いただければなと思いますので、お聞きします。

そして、資料の右下の部分、今回拡充をいただきました地域おこし協力隊の活動推進事業で、聞き逃していたら申し訳ないのですが、令和6年度に創設したインターン制度について、内容を確認させていただいてもよろしいでしょうか。

（政策推進課副主幹）

まず、インターン制度についてご説明いたします。これまで地域おこし協力隊を町でも何人が採用していましたが、途中でミスマッチといいますか、隊員がやりたいことと町のやりたいことに齟齬が生じて、任期途中でやむを得ず退任になってしまうというようなことがありました。そういったものを防ぐというようにことを目的としまして事前にインターンという、就業体験、協力隊の活動を体験いただくということを目的として、昨年度インターンを設置したというのが、大きな目的となっております。

実際に、今年4月から池田さんという方が地域おこし協力隊として活動していますが、その方はインターンを活用していただいて、そのまま協力隊になったという現状でございます。

現在、インターンの募集をしておりますが、ミスマッチを防ぐ観点も大事なんですが、町内に移住や定住、また就業していただくということも必要なのかなと思っておりますので、入口として地域おこしの活動を通じて、町に関心を持っていただくことで、関係人口の創出にも繋がるのかなと思っております。

地域おこし協力隊の活動を事前に体験いただくということもありますが、移住定住していただくということも、インターン制度としては、効果があるのかなと思います。

（政策推進課長）

私からは、食品ロスの取組と特産品開発のことについてですけども、まず食品ロスの削減、非常に何かっていうのが難しいんですが、例えば各給食センターや栄養士を中心とした学校での食べ残しの検証、あるいは農林課商工観光課が中心となって飲食店に対して、飲み会の時期に注文の仕方や飲み会のあり方など農林水産省から周知されるようなイベントのPRや周知に

については、職場の中で地道な活動ではありますけども食品ロスにつなげるというようなことをしているのが現状かと思っています。

特産品開発については、堀川委員がおっしゃるように、特産品開発の補助金を利用して開発した特産品を首都圏の物産展に持っていくなど、町外の方にPRする機会はあるんですが、町内の方が知らない、あるいは積極的に購入したりというようなことに繋がっていないというのは、その通りかと思います。そういったものを知る機会というのは、今後、時期をみて増やしていければいいかなと思っています。

補助金額の拡充については、ここでは申し上げられませんが、利用のされ方や活用後どうだったのかといった実績とかも含めて、検証しながら今後については検討していければと思っています。

（堀川委員）

食品ロスの削減については、地場産品の積極的活用を推進するとともにというところの文言のイメージが思い浮かばなかったので、食品ロスの削減という言葉は良いんですが、どう絡み合うのかなっていう部分での疑問があつての質問でした。きつとなかなか答えは出にくいのかなと思いながら、お尋ねしたんですけど、今後において、もし取り組まれるということであれば、もう少し分かり易いような取組があつたらいいのかなと思いました。

地域おこし協力隊については、先日たまたま別海町に行ってきました、自治体の方とお話する機会がありました。既にホームページなどでご覧になってるかもしれませんが、別海町は地域おこし協力隊が52名もいらっしゃるんです。

話を聞いてるといろいろ工夫も多いなと思いましたけど、委託型の隊員の方もいらっしゃるとのことでした。インターンは元々始まりの試用期間というか、お互いの今後のことを含めて擦り合わせる期間だと思いますが、別海町では最初からそのようにされていたのはちょっとびっくりしました。自治体によってそれぞれ考え方は違うかなと思いますし、幕別町は最初は消極的にやり始めて、少しずつ地道に低空飛行のままずっとやってきて、今ようやく力を入れようとしてるように見えます。

最近、二地域居住なんかあつたりして、いろいろな住まいの形ができてるので、行政としては難しいとは思いますが、そういったところに地域おこし協力隊を当てはめても面白いのかなと思います。別海町では地域おこし協力隊の方が地域のことを気に入って定住したいなとなつて、役場にお勤めになったと聞きました。

一方で、他の町の魅力を知りたいと思って出ていく方もいれば、自分には合わないと思われ方もいらっしゃるかもしれませんが、しっかりと分析して、今後に生かしていただきたい

と思います。我々や観光物産協会としても、地域おこし協力隊の方のご協力がやっぱり必要な場面が多々あるので、いろいろな人材に声が届くような、進め方をお願いできたらと思うての質問でした。

（政策推進課副主幹）

ご指摘ありがとうございます。地域おこし協力隊については、別海町の他にも上川の東川町など何十人と採用されているってというような地域もあるかなと把握してます。幕別町は、令和元年度に初めて採用しましたので、やはり他の地域に比べても後発。実績としても、他の先進地域では人が人を呼ぶというふうな状況になっておりますので、やはり実績を作ることが、幕別町で何か面白いことをやってるぞということで呼び込める要因になっていくのかなと思っております。

地域課題や地域創生に関心ある方々を、引っ張ってこれるような取組というのは引き続きしていきたいなと考えております。

（政策推進課長）

先ほど話のあった地場産品の積極的な活用を推進するとともに、食品ロスの削減っていうのが、その直接的な結びつきっていうのは、分かり易い書き方ではなかったかなと思いますので、これから工夫して、わかりやすい表現になるように検討したいと思います。

（堀川委員）

しつこいようで申し訳ありません。うちの子も今回就職で町外に出てしまったんですけど、昨年成人式を迎えるにあたって、東京辺りから戻ってくる子供達に対して何かということで、以前に原課の方にお話しした記憶ありますが、例えば、今まで東京幕別会や札幌幕別会に参加させてもらった時に若い方の参加っていうのが皆無なんですよ。

例えば、20歳の時に成人式のご案内する際に、もし東京や札幌に住民票のある方がいらっしゃったら、会に招待なんかして、お酒も飲める年齢になっているので参加しませんかなど、町のことを思い出してもらう機会を作り、いずれ5年、10年掛かるか分からないですが、花が開くような声のかけ方をするだけでも効果があるのかなと思うんです。これは提案になるのですが、いかがでしょうか。

（政策推進課長）

非常に良いご提案かなと思っておりますので、今年も幕別会は開催する予定でございますので、成人式の際に同人会的な場があるということを積極的に発信をして、町の情報や戻ってくる際の参考になるような情報についても、研究できるような場をつくりたいなというふうに思います。

（笹井会長）

よろしいでしょうか。他に何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

（勝井委員）

地域おこし協力隊活動推進事業の部分なんですけど、空き家店舗に限定してる話かもしれませんが、結構断続的に開店まで至ってる方が出てきている状況の中で、開業してそれでよかったねではなくて、その先としてある程度応援していったらあげないと事業の持続というのは、とてもできないよねっていう話になっていくと思うんですね。

私が存じ上げていないだけなのかもしれませんが、そこに対する今後の政策があるのか、これからそういった余地があるのか。開業にこぎつけた方を全体、全町でと言ったほうがいいでしょうか、支援や応援していくような方向性について、分かれば、教えていただければと思います。

（政策推進課副主幹）

地域おこし協力隊の活動後の支援につきましては、現状、町としての支援がない状況でございます。ただ、今までの隊員の中でも、いろいろ地域の活動する中で、起業や、事業継承もしていきかけたというような声も聞いておりますので、今後町としましても、地域おこし協力隊の方が引き続き定住していただくために雇用の場というのも当然必要になってきますので、そういった支援というのでも検討していきたいなと思います。

（政策推進課長）

補足になりますが、お店を開店されてる方は地域おこし協力隊の方だけではなくて、外から来られた方が、空き店舗を利用して新たに起業されたという方もいらっしゃるって、そういう方々が長く続けられるためのサポートという意味で、勝井委員おっしゃられてると感じたんですが、私たちもまさしく、起業したけども、続けていけるのか、あるいは幕別町で商売として成り立つのかといったところがとても大事な部分だと思ってます。

今年度、間もなくこういうことやりますよということがリリースできると思うんですが、実際に起業されたお店を回るような計画がありまして、町民の方から新しいお店に入りにくいとかどんなお店なのか分からないというような声があって、そういったお店を周遊するツアーみたいなものを企画してますので、町の方としても施策として考えていきたいと考えています。

（笹井会長）

他にございませんか。無ければ、申し訳ないですが、私の方から1点だけお聞きいたします。

既存事業者及び、進出企業に対する支援の拡充で、商工会振興補助金の高圧受電施設の更新やエアコンの新設が記載されていますが、これは変かなくなっていう気がします。他に、商工会振

興に対する補助目的とかの補助事業があるんだったら、分かるんですが、あくまで施設の更新を何か振興のためにやってますよってというのは、ちょっとニュアンスが違うのかなという気がします。この他に何かこういう事業予定してるとかあればお伺いします。

（政策推進課長）

当初予算の中で、商工会振興補助事業ということで町として政策的に補助するものとしては、ここに記載されている高圧受電設備の更新やエアコンの新設、特に高圧受電設備が金額的に大きいものですから拡充ということで記載しております。

その他のソフト面的なところでは、イベントの補助ですとか、基本的に商工会の方から要望いただいたものの中から認めています。今ここで、はっきりと内容についてのお話はできないのですが、どちらかというとな務的な補助のものが多く内容です。

具体的なものが示せばいいのですが、特に金額が大きいものということでここに挙げさせていただいたという次第です。

（笹井会長）

ありがとうございます。他に何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。それでは次にいきたいと思います。

基本目標2の十勝・幕別への人の流れをつくるにつきまして、事務局から説明をお願いします。

（政策推進課副主幹）

2ページをご覧ください。

基本目標2「十勝・幕別への人の流れをつくる」についてでございます。「ブランド戦略やシティプロモーションの推進」をはじめ4つの取組を進めております。

左上の「ブランド戦略やシティプロモーションの推進」に関する事業としまして、ふるさと寄附返礼品贈呈事業として、ふるさと納税に関する広告料等を拡充し、ふるさと納税への専門誌やWEBサイトへの広告など、様々な媒体を活用したプロモーション活動を展開することとしております。

続きまして、右下の「移住・定住対策の推進」に関する事業としましては、本町地区を中心に進めてきた空き施設改修の実績を忠類地区にも波及させるべく、空き施設利用サポートセンターであります「幕練」のサテライトを設置し、忠類地区での空き施設の活用等に関する助言やマッチング等を支援します。

（笹井会長）

この件につきまして何かご質問等ございましたらお願いします。

（堀川委員）

まず、ブランド戦略やシティプロモーションの推進の2項目目の多言語による観光情報サイトでの情報発信やWi-Fi環境の整備についてですが、総合計画等で触れられてきた経緯があったと記憶しています。現在、どのくらい進んでいるのかというのを教えてほしいです。

また、下段のスポーツ合宿体験の部分について、毎度聞いて申し訳ありませんが、スポーツ合宿大会誘致及び受入体制の強化と記載いただいておりますが、これについては人員面、施設面においてもという意味かと思いますが、今年度についてはどのような内容になるのかについて教えていただきたいです。

（政策推進課長）

1点目のWi-Fi環境ですが、ここでいうWi-Fi環境の整備ということになると、先ほど外国人の方が町内で使用できる環境も含めてということになると、まだまだ進んでないのかなというのが現実かと思います。

インフラとしては、光回線っていうのが整ってきておりますので、可能だと思いますが、フリーWi-Fiの設置する場所の検討をしている中で、公共施設以上に進んでいるというような現状ではありません。

それから、毎回、堀川委員にご指摘いただいているスポーツ合宿について、合宿誘致委員会の方でもいろいろ検討やご尽力いただいているということに感謝しております。受入体制の強化となりますと、金額の面に関しては、例えば補助金はこれぐらいということでやっていただいているのでなかなか難しいですが、施設のなところで、このスポーツを呼んでくるためにこういった施設が必要だとか、体制の確認も含めて、今後どうあるべきかというようなことも検討しているということです。

実際に、今年どこの施設をどうするとか、どんなものを呼んでくるために何をするかっていうのは、町主導で何かしてるということは具体的にはございません。

（堀川委員）

Wi-Fi環境については分かりました。観光物産協会の理事会でも、こんなとこにあったらいいのではないかだとか、民間としてはどういうふうな使い方が良いかなど、今度お話し合いをしてみて、また課長のところにお邪魔させていただきます。

スポーツの受入体制の強化については、やはり施設面の充実が必要かなというふうに思っています。3月頭にパラスポーツの体験会を高道委員にもご協力いただいて、開催をさせていただきました。十勝管内や管外からもご参加をいただいて、ありがたいなと思った反面、車椅子や身体障害のある方に対しては、ユニバーサルデザイン化っていうのは必要なだろうと思

います。お手洗いや水回りも含めてなんですが、以前に車椅子ラグビーのエキシビジョンを札内スポーツセンターで、開催してもらったときに大谷短大の方々のボランティアを借り、ご協力いただいて、帯広市から移動トイレをお借りした記憶ありますが、なるべく宿泊や移動も、町内で何とかできるような形が良いのかなと思います。

今後、2028年にはパラリンピックがありますので、そこに向けて、何回か交換合宿でも練習試合でも、進めていければ、幕別町はこういったところに力入れているということで、宣伝になるのではと思いましたが、それが呼び水になって普通のスポーツも来てくれたら、なおさらありがたいと思ったものですから、大変かもしれませんが、我々も協力したい気持ちはありますので、またご検討いただければなと思いますが、いかがでしょうか。

（政策推進課長）

3月にパラスポーツの大会を開いていただいたということで、実際にやってみて障害をお持ちの方が施設を使用する際にユニバーサルトイレや段差の解消、障害者優先の駐車場がどうかという問題点もたくさん見えてきたと思います。

施設整備につきまして、町の予算も絡んでくるので、今すぐにどうするということは申し上げられませんが、どういう問題を解決したら誘致しやすいなど課題が見えてきましたので、そういったところについては、今後、誘致委員会とも一緒に情報共有しながら、検討していければいいということは今回感じましたので、共有させていただきます。

（堀川委員）

もう一点、町内でパラスポーツイベントがあつて、終わって皆さんがお帰りになる際にどこでお食事をしたらいいでしょうかと聞かれることがありましたが、何店かご案内させていただくのですが、車椅子の方が利用できるかとなると中々難しく、民間への訴え掛けが必要なんだろうと思います。町全体として何かある時に、何とかできるように、働きかけがあったら良いのかなというように思いました。

（政策推進課長）

総合計画の中でもまちづくりにおいてユニバーサルデザインの推進という形で、例えば道路や建物にも言及してますので、そういったところを研究しながら進めていければと思っています。

（笹井会長）

他にございますか。

（高道委員）

お聞きしたいことと提案がありまして、スポーツ合宿と大会誘致の推進について、堀川委員

も言われてましたけども、スポーツ合宿や大会の受入体制の強化をすることによって、幕別の魅力を発信する大きな力にはなると思います。資料の中に運動・スポーツを支える人材の育成という項目があるのですが、具体的に町として人材育成をするために、こういった手段が必要だとかどういう計画をされてるかをお聞きしたいです。

また、現在各市町村で、部活動の地域移行という課題に取り組んでいるわけですが、実際に地域移行をしていくにあたりまして、やはり幕別の人の流れを作るって意味では、部活動のその地域の魅力というか、幕別町では部活からクラブに変わってくる中で、クラブの魅力を発信していけばそれを間口に人が来るんじゃないかと思います。

今、教育委員会が主体になって、部活動の地域移行の話は進んでると思うんですが、幕別町としても何か取組をしていきたいという考えはないんでしょうか。

（企画総務部長）

まず、人材育成の方なんですけど、スポーツ分野等については、高道委員が仰ったように教育委員会が主体となって、その位置付けというのは生涯学習中期計画に位置付けております。

ただ、具体的にこの場で、お話することはできないんですけども、委員会サイドとしては、これまでもずっとこの部分は認識しており、協力していただける方の発掘が大事なのかなと思います。部活動においても、指導者などの人材が不足してる現状がありますので、結果的には大きなクラブへの移行って形にはなりますが、出来る限り児童生徒達がスポーツ活動が出来るようおそらく部活動の移行検討委員会の中で、協議されてるのではないかと考えております。

次に発信の部分ですが、こちらについても今後の地域移行に向けてどうするかは全国的な課題だと思います。大きな都市部であれば、それなりの規模のクラブがあって、それだけの子供達も指導者もいる。そういった中で循環させていくという形でやっていますが、地方になればなるほどそこをどうするかというのが課題として検討していく部分ではないかなということなので今やっております。発信という部分については、先ほど申した人材育成もそうですが、クラブ移行の部分についても担当課を通じて、情報発信に努めてまいりたいと思います。

（高道委員）

幸いにも幕別には全道に先駆けて、札内スポーツクラブっていうクラブチームがありますので、せっかくですから最大限利用して、進めていければ良いのかなと思います。

また、人材育成の意味では、体育教育の免許や資格がいろいろあり、スポーツ協会としても今年から少しずつ取り組んでいこうと思っはいるのですが、その資格を取る際の補助など考えています。予算の話になると思いますが、今後検討していただく材料にしていいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(政策推進課長)

高道委員が言われました免許資格については、予算に関わるものになりますので、こういったご意見があったということについては、当然こちらとしても受けとめた上で、担当課の方にも伝えておきたいと思います。

(笹井会長)

他にございませんでしょうか。それでは次に移りたいと思いますが、基本目標3の結婚・出産・子育ての希望を叶えるについて事務局より説明をお願いします。

(政策推進課副主幹)

3ページをご覧ください。

基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」についてでございます。「結婚の希望に応える支援」をはじめ、「次代の郷土を担う子どもたちへの支援」まで5つの取組を進めております。

左下の「妊娠・出産希望者に対する支援」の取組としまして、新規事業として、1か月児健診事業、新生児聴覚検査実施事業を実施します。

1か月児健診事業は、赤ちゃんの成長や発達を確認し、病気の早期発見・治療につなげることを目的として健康診査に係る費用を助成するものです。

また、新生児聴覚検査実施事業は、聴覚障害が早期に発見され、適切な支援が行われた場合は、障害による音声言語発達等への影響が最小限に抑えられることから、早期発見・早期療育を図ることを目的として検査に係る費用を助成するものです。

産後ケア事業につきましては、これまで町内での利用者を対象としていましたが、十勝管内の里帰り先などでも産後ケアを受けられるよう、利用料等を助成するものです。

次に、右側の「子育て世代の負担軽減及び支援」の取組としまして、新規事業としましては、「幕別認定こども園整備事業」を実施します。

認定こども園については、旧中央保育所を使用して令和6年4月に開園したところですが、施設設備の老朽化や駐車場の確保等が課題となっていることから、旧わかば幼稚園園舎等の改修を進めるものです。

また、修学支援資金交付事業につきましては、北海道の支給単価が公立・私立高校とも増加したことから、町の支給単価も道と同じ単価に拡充し、対象となる世帯へ支援するものです。

4ページをご覧ください。

「「生きる力」を育む学校教育の推進」の取組としまして、新規事業として、授業支援ソフトの導入、まくべつ学園増改修工事事業を実施します。

授業支援ソフトの導入につきましては、先生やクラスメイトとの交流を通じて、必要な資質・

能力を育成する協働的な学びを実現させることなどを目的として、現在小中学生に貸与している学習用端末に授業支援ソフトを導入するものです。

また、まくべつ学園増改修工事業につきましては、令和8年度の開校に向け、幕別中学校の教室棟などの増築や電気設備等を改修するものです。

右側の「次代の郷土を担う子どもたちへの支援」の取組としまして、主にアイヌ関連の事業について事業費や取組内容を拡充しています。アイヌ文化拠点空間整備事業では、生活館棟及び外構の整備に係る工事、そして、展示館棟、宝物堂に係る工事を実施する予定です。

また、アイヌ文化振興事業につきましては、アイヌ文化体験やアイヌ語講座の開催、巡回展、首都圏でのPRなどを予定しています。説明は以上です。

（笹井会長）

何かご質問等ありましたらお願いいたします。

（堀川委員）

最初に1枚目の右側の子育て世代の負担軽減及び支援というところで、今回拡充されました修学支援資金交付事業について単価を見直したということだったんですが、これは元々生活保護対比1.3倍未満ですかね。他の市町村と同じですか。

それから次のページの生きる力を育む学校教育の推進の中の学校運営協議会運営事業で、小中一貫も入ってますけども、札内東学園の件では皆さん頑張っている状況ではあります、やり続けることに意義を見いだしながらも、皆さん働きながら、手伝いをしていただけるという格好なので結構辛さもあります。

先日コーディネーターを交えて打ち合わせした時にも、大変だねというような話になりましたが、持続的に進めるためには、フォローがやはり必要なんじゃないかなと思います。

意見交換の場でもなんとか設けていただきながら、お互いの意思疎通を図るようなやり方をした方が良いような気がして、教育委員会の分野かとは思いますが、未だにどう言ったらいいかわからないですが、やり続けられるような方法を模索しようということなのですが、また整理して伺います

最後、高額な予算を用いてのアイヌ文化拠点空間整備事業なんですが、改めてお尋ねしたいのですが、町民の皆さんとお話をする際に話題に上がるのが、なぜ幕別町がアイヌの建物の整備事業をしなくてはならないのかというように言われることが多いです。

もう1度この辺を改めて教えていただいてもよろしいですか。

（政策推進課副主幹）

まず、修学支援資金交付事業につきましては、近隣の市町村との比較等の資料を持ち合わせておりませんので、後日ご回答させていただきます。

（政策推進課長）

2つ目の質問の学校運営協議会運営事業のお話なんですが、これも教育委員会へと話してみないと分からないので、活動していくに当たり、マンパワーが必要で持続的にやっていくために何が必要かっていう情報共有や意見交換の場が必要なのではという堀川委員の意見だと思いますので、教育委員会に情報共有しながら進めていけるようにしたいと考えています。

最後のアイヌ文化拠点空間整備事業ですけども、強い想いをもって今ある蝦夷文化考古館を建て替えて、拠点を造ろうとしてるわけですが、アイヌ民族が建てた資料館は北海道内に3つしかなく、そのうちの一つ、吉田菊太郎さんというアイヌの先人の方が作られた貴重な資料があるという幕別の千住地区という場所に拠点を置いて、素晴らしいアイヌの文化を後世に伝えていきたい。それからせっきく幕別町内にそういった人がいて、そういったものがあるということ町内の人だけではなく北海道、全国の方に知っていただきたいという想いがあって、生活館棟と展示館棟の建設をするという内容です。

生活館棟の方につきましては、今の千住生活館でアイヌの方が活動されている活動拠点を再度建設するという事で造っております。堀川委員が仰られたことは、広報紙などを利用して、例えば文化の事を知っていただくために、1年半ぐらいコラムを掲載してアイヌの文化の事を知っていただくような活動、周知は続けてますので、オープンするのはまだ先ですが、町民の皆さんに知っていただける機会を広報紙やホームページを通じて、もう少し積極的に作っていければ良いと思っています。

（堀川委員）

アイヌのことは、私の娘が小学校だった時に修学旅行は札幌方面で、私が小学生の時には、阿寒方面でした。阿寒ではアイヌ文化に触れる機会ってあるのだと僕は思ってますけど、そこをあえて札幌にしておいて、またうちの町で十数億円のお金を掛けてまでっていう方はやっぱり多いんですよ。

私もあまり学校の方に口を出すようなことはしませんでしたけど、何でだろうと、昔しておかないで、今するのかと思いました。そういったことがあったので、丁寧な説明がもっと必要だろうと思ったんです。

造るなら造るで、皆さんが寄ってもらえるような施設にしてほしいし、私も観光物産協会として、何かイベントがあるのであれば、その場をお借りさせてもらって、町のPRもさせていただきたいと思いますが、この図面を見ると大型バスを停める場所って、2台しかなくて、バスが転回するスペースってあるのかなと思ったんですね。

造ってる最中からずっと思ってたんですが、人を呼び込むつもりがあるのかなって疑問に思い

ますし、どういう視点でこの施設をみるのか分かりませんが、ちょっと細かく言って大変申し訳ないんですが、なんか横の広がりを抑えたようなつくりになってるように見えて、用途が限定されていて、活用しづらそうな施設に見えちゃって仕方がないです。

今更、何かを直すことはなかなか大変かもしれませんが、引き続き課題なのかなというふうに思いまして、僕は建物よりはゾーンで考えたい人間なので、上手い具合に、札内があって幕別本町があって、こういった文化的創造があってというような、幕別町を切れ目ないような形で魅力を伝えられたら良いのかなと思います。

話は変わりますが、私自身、高校のPTAからなかなか離れられなくて、また1年居残りさせられるんですけど、また修学支援については教えていただけたら助かります。

また、地学協働についても予算がないですね。CSも旅費相当しかないんですけど、なるべく活動しやすい形も必要かとは思っているんで、また教育委員会の方に働きかけてください。お願いいたします。

（政策推進課長）

学校運営協議会運営事業につきましてはそのようなご意見があったということで情報共有をしておきたいと思います。

アイヌ文化拠点空間整備事業についても、指摘いただいた丁寧な説明を心がけていきたいと思います。これから1年かけて建設して、来年にはオープンという運びになりますから、町内の方が観るだけでなく、外から来ていただいて観光していただく、あるいは、アイヌとナウマンゾウ、幕別町内にある学習素材を利用した学習旅行だとかそういったものを計画していく、その中で食べる場所とか、いろいろな諸問題というのが出てくるのかなと思いますので、そういったところも伝えていきたいなと思っていますし、今後建築されるまでの間にできる限りそのような疑問を払拭できるように、PR活動をしていきたいと考えています。

（笹井会長）

他に何かご質問等ありましたらお願いいたします。

（高道委員）

私もアイヌ事業の件なのですが、建物の外観については資料に平面図が載せてあったり、施設の前を通る際にコンクリートの枠組みを見てイメージはつくのですが、内観のイメージがつかなく、ホームページ等に掲載されていたのでしょうか。

ホームページや広報を全て確認できていた訳ではないので、見落としていたのかもしれませんが、興味がありますのでお尋ねします。

（政策推進課長）

展示の状態についてですが、実施設計やプロポーサルの方で中身については組み立てている最中になりますので、明らかになった段階で速やかにお示しできるような形で考えています。

現段階ではホームページだとか広報に掲載はされておらず、私達もこういう感じになるというイメージは伝え聞いております。今、外観として見えてるのが生活館棟でして、建物全体の東部分になりますが、これから西の展示館棟部分の建築も始まっていきますから、そちらについても決まり次第共有いたします。

（高道委員）

設計が入ってますので、ある程度出来上がってるのかなと思ってはいたんですが、展示状態のイメージだとか、壁が何色になるとかどういったものを展示するとか、あっても良いのではないのでしょうか。

平面図と建物の外観だけではイメージがつかなくてですね。コンクリート部分だけを見ていただくと、何か興味が湧いてこないといいますか、変な話、完成してからこんなふうになりましたでは遅いので、もっと事前に公開しても良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

（企画総務部長）

大まかにはプロポーザルで提案していただいて、それをどういった考え方がいいのかっていうもので設計しておりますので、最初のイメージ図はありますが、その通りになるかどうかというのは構想段階の資料であります。

ただ、その後に色だとか展示をこうしようだとか詰まってきたのかとは思っております。それを現時点で出せるか出せないかってのはここではっきりとは回答できませんので、こういった意見があったということで、もっと内容が伝わり、どんな施設かということが、より皆さんに伝わるような形を検討するようという形で伝えておきます。

（高道委員）

ちなみにこの施設は避難所に指定する予定はあるのでしょうか。

（企画総務部長）

現時点では、そういった予定は聞いておりません。

（笹井会長）

何かご質問等ありましたらお願いいたします。それでは次に移ります。基本目標4 安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくるについて事務局より説明願います。

（政策推進課副主幹）

5 ページをご覧ください。

基本目標4「安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」につきまして、「地域公共交通の維持・確保」をはじめ、「行政事務の効率化と住民サービスの向上」までの9つの取組を進めております。

右側の「健康寿命の延伸」の取組としまして、新規事業を3つ実施します。

まず、骨粗しょう症健診事業ですが、骨粗しょう症の予防及びその予備軍となる低い骨密度者の早期発見・治療を促すことで医療費や介護給付費の抑制、生活の質の向上を図ることを目的として、40歳以上の女性を対象にがん検診などに合わせて健診を実施するものです。

続いて、中等度難聴者補聴器購入費助成事業ですが、こちらは、コミュニケーション能力の維持・向上を促進や積極的な社会参加の促進などを図ることを目的として、40歳以上の中等度難聴や補聴器の装用が必要な方を対象に、補聴器購入費の一部を助成するものです。

続いて、带状疱疹ワクチン接種事業ですが、これまで一度も带状疱疹ワクチンを接種したことがない65歳以上の方を対象として、带状疱疹やその合併症を予防するため、接種費用を助成するものです。

その下の欄の「生活支援の連携体制の構築」の取組としまして、成年後見実施機関運営事業ですが、社会福祉協議会に委託・運営している成年後見実施機関業務に加えて、権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築を図ることを目的として、中核機関としての業務を委託し、権利擁護支援が必要な方を支援に結び付けます。

6ページをご覧ください。

右側の「地球温暖化対策の推進」の取組としまして、拡充事業としてゼロカーボン推進総合補助金、公共施設LED化事業を実施します。

ゼロカーボン推進総合補助金は、ゼロカーボンシティまくべつの実現に向けた取組の一つとして、再エネ・省エネ機器を対象とした補助事業ですが、今年度は新たに窓や玄関ドアの省エネ改修や屋根や壁への遮熱塗装等を補助項目として追加しております。

また、公共施設LED化事業は、施設の省エネ化を図ることを目的として学校など主に避難所を中心として公共施設のLED化を推進します。説明は以上です。

(笹井会長)

何かご質問等ありましたらお願いいたします。

(金野委員)

1点だけ。新規事業の带状疱疹ワクチン接種事業についてですが、40歳くらいで罹患すると聞いたことありますが、65歳以上に助成するということで年齢の基準みたいなものはあるんですか。

(政策推進課長)

これは今までの知見といいますか、検証データで65歳以上の方の発症率が非常に高くなると

いうデータを基に国の方でB類疾病に該当するにあたって、65歳以上の高齢者については、積極的に带状疱疹ワクチンを接種するよう自治体の方で進めるということになったことから、一応65歳以上というようなことになってます。

65歳以下でも、実際に罹患されている方はいると思うんですけども、発症率とかその検証データから65歳以上が増えているということです。

（金野委員）

町としては、40歳以上までに拡大する考えはありますか。

（政策推進課長）

今まで実は带状疱疹ワクチンは比較的効果の高い組換えワクチン、乾燥ワクチンの方が1回接種するのに2万2000円とか掛かっていて、65歳以上の高齢者の方が罹患してしまうと後遺症とかに悩まされる確率が高いというようなことがあって、今回厚生労働省の方でB類疾病に認定するということになった流れがあるので、開始するにあたっては65歳以上で考えてますが、そういったご意見もありましたということを保健課の方に伝えておきたいと思っています。

始めたばかりですので、今すぐ拡充にはならないかとは思いますが、データや実績などに基づいて検討していく形になろうかと思っています。

（笹井会長）

他に何かご質問等ありましたらお願いいたします。

（山本委員）

私からは何点か質問いたします。まず、骨粗しょう症検診なんですけど、40歳以上の女性を対象として、ガン検診に合わせてというお話ですが、実際臨床上で40歳の女性に骨密度の検診をしたことほとんどないのでデータが無いのかなと思います。女性の場合は58歳が平均になるので、40歳にした理由が不明なのかなと思います。

また、男性の場合は障害を持った場合、例えば外出や運動の具合とかそういった場合で見ると、高齢の方の70%は、骨粗しょう症になってる可能性が非常に高いっていうのもありますので、対象となる年齢と性別に関してどのようにお決めになったかをお聞きします。

それからもう1点、中等度難聴者補聴器購入費助成事業について、説明の中で補聴器が必要な方ということでしたが、中等度難聴者というのは医学的な言葉ではないのですが、どこから出てきた言葉なのでしょう。

最後に带状疱疹ワクチンについて、先程お話いただいたように国から65歳以上をとというのはその通りだと思うんですが、2種類のワクチンに対して補助するっていう話で、医者に安価なワクチンと高価なワクチンについてどっちが良いですかと聞いたら、効果等考えても高価なワクチンが良いですよって言うと思います。

そうすると、欧米では生ワクチンはなくなってますので、そっちに移行するってことなんで

すが、1人に対して2万円ぐらいのことなんですけどね。こういったすみ分けで考えたとなった時に、効果のある方を使用するという考え方でいいんですかね。

（政策推進課長）

まず1点目の骨粗しょう症の検診ですけれども、40歳以上としたデータははっきりとは聞いていませんが、おそらくスマイル検診の対象年齢がこの年齢ということもあって、年齢の設定をしたのだと思います。

山本委員おっしゃるように、女性の方にこの症状が多いということは分かっていますが、男性はなぜ入れないのかということも担当課には伝えたいと思いますが、高齢になると、予防というよりは、対症療法みたいになってしまうということもあるのかと思います。

今回、委員より指摘いただいた女性の平均発症時期が58歳だとか男性も対象に含めないのかということは伝えたいと思います。今年から試みるということもあるので、こういった考え方があるかというのは、情報共有させていただきたいなと思っています。

次に、中等度難聴者、こういった言葉があるのかということですが、中等度というのは障害の方の区分で、基本的に定められてる言葉をそのまま使用しています。厳密に中等度難聴者という言葉があるかどうかははっきりとしたこと言えませんが、難聴の程度については障害区分が高度の方が障害者手帳の該当になるので、ここに適用されない補聴器の必要な中等度程度の難聴の方を対象に助成するという形になっています。

（笹井会長）

他に何かご質問等ありましたらお願いいたします。

（原田委員）

私からは1点。自助、共助、公助の連携による防災体制の強化の中の緊急通報装置設置事業について、一人暮らしの高齢者というのは町で調べるんですかね。

私の町内会では、320世帯があって、一人暮らしの高齢単身者が25世帯あります。町で調べるということなのか、町内会を通して調べていくのか、今更にはなりますが教えていただければと思います。

（政策推進課長）

基本的には町の方で必要とされる方々の家族から申請があって、保健師が訪問して、実際に必要かどうかというような判定をさせていただいてつけるということもあります。

他にも高齢者実態調査というのを行ってまして、一定の年齢になった方、何年かに1度という形でどんな生活されているか実態調査もさせていただいています。その中で、普段の暮らしに不安があつてということで、いざとなった時に緊急通報のボタンを押すと、救急車が呼べるシステムをご紹介した時に、設置してほしいということがあれば、保健師が訪問して、聞き取りをしながら必要な手続きを進めています。

従って、一人暮らしの方全員というわけではなく、必要とされる方のお宅から申請があつて、認定して設置しているという状況です。

（原田委員）

では、あくまでも手を挙げた人を中心ということですね。今、町内会の方で一人暮らしの所を回ってるんですが、手を上げそうな人もいないんですよ。自分は元気だからっていうような判断をしている人が多いですが、そういった人には強制的に設置はしないということですよ。らしいですね。

（政策推進課長）

はい。

（原田委員）

町内会の方に近い内にそういった調査が入りますよという話をしなくても大丈夫でしょうか。

（政策推進課長）

はい、高齢者実態調査については対象となる方のご自宅に郵送で届くようになっておりますので、町内会で対応していただく必要はないと思います。

（笹井会長）

他に何かご質問等ありましたらお願いいたします。

（宮田委員）

先程の質問に付随するんですが、一人暮らしの方も多いんですけども、老々世帯が多くなってきたってということで、緊急通報ももう少し拡大して老々世帯まで拡大したほうがいいのではないかなというのが実感としてあります。

もう1点ですが、最近そういった人が亡くなって何日か後に発見されたっていうケースが増えてきているという状況もあるので、この緊急通報以外の何か支援策があれば良いと思います。

保健師さんが訪問するにも限界があると思うので、もう少し違った訪問ボランティアだとか、拡大していく計画も今後必要になってくるのではないかと思いますので、意見として言わせていただきます。

（政策推進課長）

1点目の緊急通報装置設置事業の一人暮らしの高齢者等を対象の部分には、健康状態や身体状況のほか、日常生活、生活動作の状況に支障がある65歳以上一人暮らしの高齢者、または65歳以上の高齢者のみの世帯に属する方なので、65歳以上の方が2人のケースだとか、老々介護の状態で住まれてる場合は該当になると考えています。

次に、孤独死に関してですけども、自発的にこちらからというのは難しい状況ではありますが、例えば徴収員や水道メーターの検針員だとか、それから民生委員の方、地域の方、そういった方達と情報交換をしながら、少しでも異常を感じたら情報をいただくというようなこと、

それから新聞業者さんとの連携によって3日分溜まっていたらすぐに連絡してほしいというようなことをこちらからの積極的に依頼をすることで、異常があったら訪問する、あるいは、必要になれば警察と同行して一緒に確認するというようなこともしていますが、もう少し情報連携を進めていければ良いかと考えています。

（笹井会長）

ほかに何かございませんか。それでは、議案2につきましてはこれで終了とさせていただきます。

その他の全体を通してご質問ございませんか。事務局の方から、連絡事項等ありましたら、お願いします。

無いようですので、以上で審議会の方を終了させていただきます。

本日はどうもご苦労様でした。